東京都立産業技術研究センター見学会報告

5 期　堀尾哲一郎

6 月 18 日（火）標記研究センターを見学した。参加者は 15 名であった。目的は都が取り組んでいる放射能測定に関して当施設がどのように対応しているかを勉強することである。ご説明と現場案内を上席研究員の桜井昇氏にお願いした。見学会は次のスケジュール通り行われた。

14:00 研修室でスライドを用いた説明。(1) 産業技術センターの概要 (歴史、組織、役割など)、(2) 放射線関連研究の概要（放射線の産業利用を中心に、放射線計測や放射線照射などに関する総合支援として、(a) 大気浮遊塵測定、(b) 空間線量の測定、(c) 水・農産物の放射能測定、(d) 工業製品などの放射能汚染測定など)。

14：30 建物外部の測定器の見学。

写真１

(1) モニタリングポスト (空間線量率測定装置で外部から入射する放射線の量から設置場所付近の空間線量率を 24 時間連続して測定している。この装置は、北朝鮮の核実験、福島原発事故でも以上を検知し都民の安全。安心の確保に役立った。) [写真１] と (2) 大容量エアーサンプラー（大容量の空気を取込み大気浮遊塵に含まれる放射性物質を特殊なガラス繊維ろ紙に捕集する装置で、このろ紙を測定室のゲルマニウム半導体検出器で測定して放射性物質の種類と空気 1 m^3 当たりの放射能の量を測定する。)

14：50 放射線非破壊検査室に於いて、サーベイメータ、放射線計数装置、ゲルマニウム半導体検出器、液体シンチレーションカウンタ、光刺激ルミネッセンス測定、放射線照射装置など説明とサーベイメータによる測定のデモを受けた。[写真２]

写真２

15：15 研修室に戻り、質疑応答があった。質問は福島原発事故関連の東京都の対応（事故発生時の東京都の空気汚染状況とその後、水質汚染、除染の状況、食品の放射線量など)。事故直後は放射線量は上がったが数日で下がり平常値となり測定は継続しているが安全上問題はないとの回答であった。測定値については東京都のホームページに公開されている。

15：40 頃まで熱心に質疑が続けられ、参加者の熱心さが窺えた。